



Japan. "Kampai" to the world.

# 日本産酒類の輸出促進に向けた 国税庁の取組等について

平成30年9月21日

国 税 庁



「経済財政運営と改革の基本方針2018」(骨太の方針)及び「未来投資戦略2018」(成長戦略)(平成30年6月15日閣議決定)等を踏まえ、日本産酒類の競争力強化や海外展開を推進するため、国税庁として以下の施策に係る平成31年度予算約2.6億円(前年度約1.7億円)を要求

## 日本産酒類の情報発信に係る経費(約1.5億円)(前年度約0.6億円)

国際的なイベント等の各国要人、プレスやバイヤー等が集まる機会に日本産酒類PRブースを出展  
大きな影響力や発信力を持つ海外の酒類専門家を招聘し、日本産酒類に関する専門的知識や発信力の向上を図る観点から、酒類製造場の視察や酒類総合研究所によるレクチャー等を実施  
海外の消費者に対して、関係機関等と連携し、日本産酒類の認知度を上げるためのプロモーションを実施

## 輸出環境整備に係る経費(約1.0億円)(前年度約0.9億円)

日本産酒類のブランド価値向上のため、酒類の地理的表示(GI)制度や日本ワインの表示制度等の認知度を向上させるためのシンポジウム等を実施  
海外における大規模展示会への出展支援等、酒類製造者にビジネスマッチングの機会を提供

## 技術支援等に関する経費(約0.2億円)(前年度約0.2億円)

日本ワインや地ビールの製造者に対する製造技術面からの支援として、専門家による評価やレクチャーを実施  
酒類総合研究所・地方自治体・大学・民間で得られたワインに関する技術情報の酒造現場における活用促進のため、酒類総合研究所にコーディネータを設置

# 日本産酒類の輸出促進に向けた国税庁の取組

## 1. 国内外における情報発信強化

リオオリンピックや伊勢志摩サミット、ジャポニスム2018等の機会に合わせ、日本産酒類PRブースを出展するなど、各国要人やプレスが集まる機会を活用し、日本産酒類の情報発信を実施

海外に日本酒の魅力をPRするためのリーフレットや、外国語による清酒のラベル表示の用語を解説した「日本酒のラベル用語事典」を作成【酒類総合研究所】  
国際空港免税エリアでの國酒キャンペーンの実施【日本酒造組合中央会】

(今後の取組等)

・G20サミット等の機会を活用した日本産酒類のPRや情報発信を実施 等

ラベル用語事典



リオオリンピックにおける  
日本産酒類PRの模様



## 2. 発信力のある者に向けた啓発

影響力を持つ国外の酒類専門家を招聘し、酒類製造所の視察や酒類総合研究所によるレクチャー等の実施

駐日外交官酒蔵ツアーの企画・実施【日本酒造組合中央会と共催】

外国人等を対象とした専門家による日本産酒類のレクチャー等の実施【酒類総合研究所等】

(今後の取組等)

・引き続き、影響力を持つ国外の酒類専門家等への啓発を強化 等

駐日外交官酒蔵ツアーの模様



## 3. 輸出環境整備

日EU・EPA交渉による関税即時撤廃、日本ワインの輸入規制の撤廃、地理的表示(GI)の相互保護及び単式蒸留焼酎の容器容量規制緩和等の実現

ブランド価値向上に有効な表示ルール(GI「日本酒」等)の活用促進を図るためのシンポジウムなどの開催

日本食・文化をテーマとする展示会「WABI(和美)」、酒類見本市である「PROWEIN」(ドイツ)・「Imbibe Live」(ロンドン)への出展を支援し、ビジネスマッチングの機会を提供

訪日外国人旅行者に対し、「酒蔵ツーリズムにおける酒税免税制度」を実施

東日本大震災後に導入された輸入規制の解除

(今後の取組等)

・外国とのEPA交渉等を通じた、日本産酒類の関税や輸入規制の撤廃要求、GI相互保護の働きかけ  
・意欲ある事業者に対する、展示会や商談会等への出展支援によるビジネスマッチング機会の提供 等

海外の見本市の模様



日本産酒類の海外における認知度の向上を図るとともに、海外における新市場開拓のきっかけを構築するため、海外大規模見本市への出展や海外における商談会を実施し、国内の酒類業者と海外のインポーター等との間のビジネスマッチングの機会を提供した。

### Imbibe Live 2018

#### 【事業概要】

- ・平成30年7月に開催した英国最大級の酒類見本市「Imbibe Live2018」において、ジェトロと協力し、日本産酒類プロモーションブースを出展した。
- ・参加を希望した日本産酒類の製造者等20者(清酒15者、ワイン2者、泡盛2者、梅酒1者)が現地のインポーター等と商談を実施した。
- ・ブース内のセミナースペースにて、日本産酒類の多様な飲み方を提案するため、「現地料理と日本酒のペアリングセミナー」及び「日本酒と泡盛を使用したカクテルのデモンストレーション」を実施した。



(ブースの様子)



(カクテルデモンストレーション)

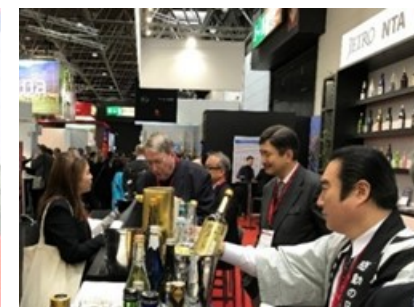
### ProWein 2018

#### 【事業概要】

- ・平成30年3月にドイツで開催した世界最大の酒類見本市「ProWein2018」において、ジェトロ等と協力し、日本産酒類プロモーションブースを出展した。
- ・参加を希望した日本産酒類の製造者等25者(清酒18者、ワイン1者、流通6者)が各国から訪れたインポーター等と商談を実施した。
- ・ブース内にて、日本酒造組合中央会や欧州の日本酒専門家等を講師としたセミナーを実施した。



(ブースの様子)



(試飲・商談の様子)

## ジャポニスム2018公式オープニング

- ・平成30年7月12日にフランスのパリにて開催された「ジャポニスム2018公式オープニングイベント」において、日本産酒類プロモーションブースを設置し、招待客である政財界の要人やメディア関係者等の情報発信力の高い層に対し、日本産酒類の魅力を発信した。
- ・ブース来訪者には、試飲に合わせて日本産酒類について造詣の深いフランス人ソムリエによる日本産酒類の魅力の解説を行うとともに、フランス語による日本産酒類のPRリーフレットを配布した。



(会場の様子)



(試飲の様子)

## 日本ワインセミナー (実施予定)

平成30年10月に、フランスボルドーのワイン専門の博物館「La Cité du Vin」において、日本ワインを題材としたセミナー、パネルディスカッション及び試飲会を実施し、海外における日本ワインの情報発信を行う予定。







東北産日本酒の輸出やインバウンド消費の拡大に向けた取組として、「IWC 2018(日本酒部門)」の山形県開催に併せて、平成30年5月12日(土)に「GI日本酒シンポジウム」を開催した。

シンポジウムでは、有識者による基調講演に加え、造り手、売り手、飲み手を代表する多彩なパネリストが「東北産日本酒の世界展開」をテーマにパネルディスカッションを実施。

また、シンポジウムの後には、参加者が東北産日本酒の銘柄毎に異なる味や香りといった個性を体感できるように試飲会を行い、東北産日本酒の魅力を紹介した。

## シンポジウム参加者(211名)

IWC関係者、酒造組合・自治体等関係者、仙台国税局管内の日本酒製造者、輸出酒類卸売業者 など

### パネルディスカッションの様様



### パネルディスカッション出席者

コーディネーター：田崎眞也氏(日本ソムリエ協会会長)

パネリスト：大橋健一氏(マスターオブワイン)

飯田永介氏(日本名門酒会本部長)

仲野益美氏(出羽桜酒造(株)代表)

Yoshiko Ueno-Muller氏(ドイツの日本酒市場有識者)

### 東北産日本酒の試飲会





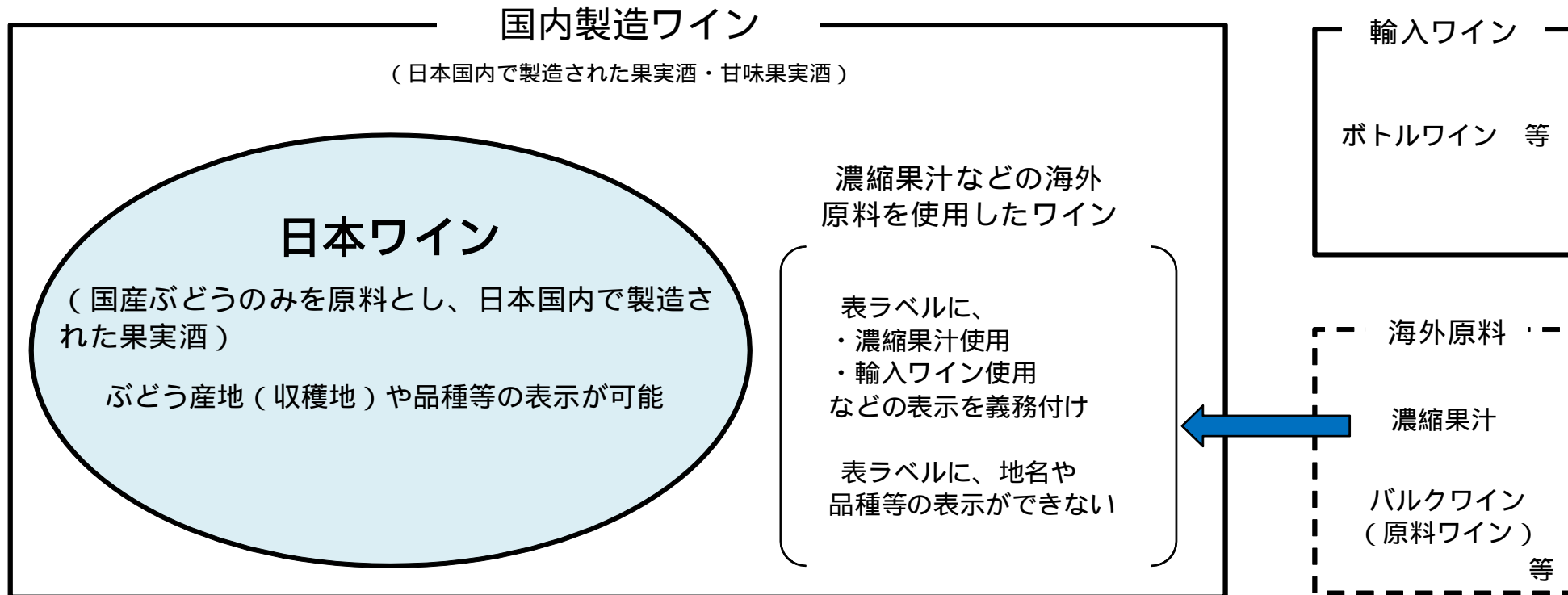
国内製造ワインについては、国産ぶどうのほか輸入濃縮果汁や輸入ワインを原料としたものなど様々なワインが流通しており、消費者にとって国産ぶどうのみを原料とする「日本ワイン」とそれ以外の国内製造ワイン（海外原料使用のワイン）の違いがわかりにくい等の問題が存在。

こうした状況を踏まえ、「日本ワイン」の国際的な認知の向上や消費者にとってわかりやすい表示等の観点から、法律に基づく告示（注）により、国際的なルールを踏まえたワインの表示ルールを策定。

平成30年7月17日に署名された日EU・EPAにおいて、「日本ワイン」についての輸入規制が撤廃されることとなっている。

告示の日（平成27年10月30日）から3年間の経過期間を経て施行（平成30年10月30日）

適用日前に製造・保存したワインは適用除外とする。



(注)「酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律」に基づく酒類の表示の基準(告示)として、「果実酒等の製法品質表示基準」を制定。